

# 石巻かほく商工会管内の地域経済分析

データ数：169社（・河北地区=63社 ・北上地区=53社 ・雄勝地区=53社）

データ年度：平成27年 平成28年

使用データ：売上高・総利益・営業利益・人件費・減価償却費・付加価値額・設備投資額

## 目次

はじめに	1
1. 収益性分析	2
2. 生産性分析	9
3. 設備投資分析	11
4. まとめ	11

平成30年3月

石巻かほく商工会

## はじめに

本来は地域経済の全体を把握し理解するための仕組みづくりが必要です。地域の経済が潤い活性化するためには、地域外から資金を稼いでくることが大切になりますが、地域内を対象とした産業と併せて資金の流れをどのようにつくっていくかが求められています。

地域経済は、その地域にある多くの企業等の積み重ねで成り立っています。各々の企業の経営力判断指標として、『企業の収益性、安全性、生産性、成長性』の4つの視点から経営分析を行うことで経営基盤を確立し継続的な経営を目指した事業を展開することが有効な手段と思われれます。

石巻かほく商工会の地域経済を分析するにあたり、地域内事業者の決算資料を使用させて頂きましたが、分析に必要な全ての項目と数値が提供されている訳ではなく、変則的な分析となっていることをご理解ください。又、収益性分析においては結果の公表にあたり個社の特定に繋がるおそれのある業種の分析結果の公表は行っておりません。このため 1-1 分析要約の各表の数値は総計と一致するものではないことにご留意ください。

### ◇分析項目

#### ◎収益性

$$\text{売上総利益率} = \text{売上総利益} \div \text{売上高}$$

$$\text{営業利益率} = \text{営業利益} \div \text{売上高}$$

$$\text{売上高付加価値額率} = \text{付加価値額} \div \text{売上高}$$

#### ◎生産性

$$\text{付加価値労働生産性} = \text{付加価値額} \div \text{人件費}$$

※本来は、人件費ではなく従業員数で割るのが正しいのですが、従業員数が不明のため人件費を使用

#### ●売上高設備費 = 設備投資額 ÷ 売上高

※今回は設備投資は 0 です。(収益性、生産性に当てはまらないが、設備費投資額が企業の営業活動の活発化を反映することに必要となる)

## 1. 収益性分析

収益性分析とは、会社の利益を生み出すことができる力をその構造的な面から測定する指標分析です。売上高総利益率、売上高営業利益率、売上高経常利益率、売上高当期純利益率などがあげられます。

売上高総利益率	=	売上総利益 ÷ 売上高
売上高営業利益率	=	営業利益 ÷ 売上高
売上高経常利益率	=	経常利益 ÷ 売上高
売上高当期純利益率	=	当期純利益 ÷ 売上高

これらの指標が高いということは、少ない費用で効果的に高い売り上げを実現しているということです。戦略や経営の良し悪しが直接反映される指標でもあり、経営者や外部ステークホルダー（利害関係者）の注目が最も集まる指標です。なお、これらの指標で損益計算書の数字しか用いない場合、より詳細に収益性を見る場合には、総合的な収益力を示す指標である ROA（総資本利益率） や ROE（株式資本率） を併用することが望まれます。

収益性分析を行う際には、上記のそれぞれの比率に注目することもさることながら、個々の費用が売上高に占める割合もあわせて見ることで、経営の実態がよく把握できます。例えば、同じ売上高営業利益率が下がった場合でも、売上高に占める広告費の比率が上がったのと、業務の外部委託費の比率が上がったのでは、意味合いは異なるからです。

収益性分析を行う際によく出る議論として、売上高営業利益率と売上高経常利益率のどちらを重視するか、というものがあります。売上高経常利益率は財務活動なども含めた通常の企業活動における利益率であり、金融収支の良し悪しや資金調達力の違いなどの財務体質も含めた総合的な収益性が反映されます。ただし、有価証券評価損益が営業外収益や営業外費用に含まれることがあるため、結果として経常利益が大きく変化していることもあります。したがって、本業をもとにした実力を知りたいのであれば、売上高営業利益率を用いる必要があります。